

船舶

Winter 2010







東部重工業株式会社  
代表取締役社長  
吉田 牧男

## これからの座標軸さがしについて

新年、明けましておめでとうございます。

私共はここ数年の間、造船・海運業界の順風に支えられていましたが、一昨年の金融危機に端を発した「変」、昨年すべてが予期出来ぬ事象が「新」と希有の激動のうちに2010年の新しい年を迎え、この難しい時にこそわが国の海事関連企業には、幾多の艱難で培われた「日本力」や「モノづくり力」を「文化」として共有していると思われまふ。

昨今は時勢で価値観の認識にも格差が見える面もあり、日本力の評価にも翳り(かげり)が出つつあるかと思われまふが、独特な島国の地政学的・地縁・学縁・結縁(ゆいえん)等と同座標観的性善説に基づく「組織形成連携性向」は、確かに内産外需から転機を迎え、若干は戸惑いながら外産内需にも限界があり、次のステップが求められ、「共存共栄」的展開で進取の気象と衆智を結集する事が必須であろうと考えております。

私共 海事関連、日本の船用工業界等はグローバルで通用するあらゆる多分野に及び各企業群がさらなる内外国で連携を強めて、多面的機能を持つ組織系統化することにより「相互補完力」を創出する事も出来得ると思われまふ。

然して具体的にはすでに存在する組織体制からグローバル対応の戦略構築が得策と考えられまふ。

弊社は創業以来47年、船用貨物船装備デッキクレーン用「つかみ」荷役用「クラブバケット」を製造し、全世界の港湾・原材料・産地等に供

給する国内・海外にて唯一の専門メーカーですが、アフターサービスネットワークをグローバルに展開する為、2～3年前より各地に提携先・協力先を構築しつつあります。

然しながら、技術サービス員派遣や部品の供給のみならず、完成製品や部分製品の常時在庫供給するシステムづくりにもトライしたいと考えております。

顧客先・商社・船社・海事関連・船用関連各社とも次の「何か」を共存共栄で附加価値を創出出来得る「術」(すべ)が出来得れば、まず船用工業会加盟企業の方々と一緒に出来ないかと考えて居ります。

此の様な連携は、私共日本固有のシステムとして、欧米やアジア圏にもネットワークの信頼性と優位性を明確に差別化する事が出来得ると考えられまふ。

グローバルな外的環境の変化にもスピーディに相互ネットワーク化を機能させて対応・対処し、本年も私共の属する海運・造船・船用工業関連業界が連携への衆智結集で乗り越え、発展へ向け良き年となりますよう期待を持って「夢」の実現を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。